

答 辞

本日は私たち、ナガサキ・ユース代表団のために、このような機会を設けていただき、まことにありがとうございます。ユース 8 人を代表いたしまして前川陽香、大田祐一郎が答辞を述べさせていただきます。

これまで私たちは核兵器がどのような影響を及ぼすのか、また、及ぼしたのかということを学ぶことができました。世界には核弾頭が、およそ 19,000 発も存在しています。68 年前、2 発の原子爆弾が広島・長崎に落とされ、多くの人々が犠牲になったにも関わらず、これほど多くの核弾頭が存在しています。なぜ、核兵器はなくなるのか、どうやったら核弾頭の数を減らしていけるのか、よりよい世界の平和を作っていくためにはどのような考え方、行動が必要なのか、すべて解決するためにはたくさんのステップを踏んでいかなければなりません。

先週、私たちは軍縮平和教育家のキャサリン・サリバンさんをメイン講師に迎えての集中講義を受講しました。サリバンさんは私たち、「今大切にしているものや人、尊敬している人、誇りに思うことは何か」と問いかけました。核兵器が使用されれば、このような大切なものがなくなってしまいます。核問題は私たちから遠い問題、国どうし政府どうしの問題ではない、個人ひとりひとりと密接に関わっている問題としてとらえなければならぬと改めて実感しました。いかに原爆を体験していない世代の私たちがその非人道性を伝えることができるのか、そのアプローチの方法を学ぶことができました。

今回私たちは、スイスのジュネーブで開催される 2015 年 NPT 再検討会議第 2 回準備委員会に参加します。そこには、政府高官だけでなく、核兵器廃絶を訴える世界各国の多くの NGO 団体も参加しております。

長年にわたって、核兵器廃絶を訴えて活動されてきた、そのような人々との交流を通じて私たちの知識を深め、さまざまな考えを学んでくるとともに、そのような方々と、今回の派遣でつながれる機会があることを大切にしたいと思っております。

ジュネーブ現地では、準備委員会と平行して様々な NGO 団体が企画するイベントが開催されております。私たちはそのイベントに参加して、各国の人々と核兵器廃絶のためにはどうしたらよいか、ということについてディスカッションをしたり、考えを深め合ったりします。さらに、私たち自身も、そのようなサイドイベントの一つを国連内で開催し、アイデアを聞く立場から、与える立場になって、日本人として、また長崎の代表として伝えたいメッセージを発信します。「核兵器は決して自分には関係のない政府や国家間だけの問題ではなく、自分たちにも大いに関係がある問題である」という僕たちの思いを伝えられるように努めて参ります。

そして、この先も海外 NGO の方々と持続的なコミュニケーションを取って、今その国で何が起きているのか、どのような問題が新たに生まれているのか、さらにそれらの問題を解決するために政府や国民はどのように動いているのか、などという情報を交換していくことも今後のナガサキ・ユース代表団の活躍の発展につながるのではと、メンバー一同考えております。

私たちナガサキ・ユース代表団は、今回が最初の派遣であります。各々、自信とともに様々な不安も抱えておりますが、今回の派遣では、私たちが持っている能力を十分に発揮し、長崎から核兵器廃絶を訴えられるように努めていこうと思っております。

平成 25 年 4 月 4 日 長崎ユース代表団
共同代表 大田祐一郎 前川陽香